

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年3月30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870101904		
法人名	衛検産業 株式会社		
事業所名	グループホーム ハイジの丘	ユニット名	上市
所在地	310-0844 茨城県水戸市住吉町302-1		
自己評価作成日	平成27年8月26日	評価結果 市町村受理日	平成28年4月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870101904-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年9月28日	評価機関 決 済 日	平成28年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今持っている温存している機能を毎日の生活に活かして欲しいと思います。おむつで入所した方は家族の方に紙オムツを持って来ないで布パンツ12・3枚持って来て下さいとお願いします。すぐに時間を見てお誘いすればだんだん失敗は無くなり（排尿の周期が分かる）暑い夏快適な生活が送れます。1週間に一度（水）午後に合同でおやつ作りがあります。皆さん良く覚えていて何も言わなくても、三角巾をかぶったりエプロンを付けて集合します。ケーキを焼く時など男性は大活躍です。[ホイップ]の様な力仕事はまかせなさいと言う感じです。皆さん仲良くワイワイと元気に生活を送っています。毎週（火）詩吟のお稽古があります。教本がありますが見なくても吟じる事ができます。敬老会・忘年会の集まってくれた方にお礼として全員で吟じます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は地域とのつながりや交流を大切に、利用者と職員は毎日の散歩で近隣住民と挨拶を交わしたり、野菜のお裾分けを頂くなど日常的に交流している。
利用者と職員は、散歩途中に空き缶拾いや公園の草取りを行うほか、小学校の運動会や神社の祭りに参加するなど、地域の一員として暮らしている。
事業所は自治会員や民生委員、老人会、小学校、中学校、特別支援学校長など、幅広い関係者との交流があり、情報交換やアドバイスを受けてサービスの質の向上に活かしている。
代表者と職員は、日中のリハビリテーションやレクリエーション活動の充実に努めており、詩吟の稽古や英語教師だった利用者による英会話教室、絵画、写経など、利用者の興味や嗜好に合わせた様々な活動ができるよう支援しており、特に週に一度の手作りおやつの時間は、利用者も参加して楽しみの一つとなっている。
職員は利用者に明るく生き生きと支援をし、利用者は穏やかな表情で生活をしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の引き継ぎ時、理念を全員で声を出して暗唱しております。一日を心新たに始めることが出来る事につながっており、毎朝行うことで、理念を一人一人が心に留め実践できることを目指しています。 又、皆で口に出すことで職員全体が一体感を持ち、協力しながらより良い介護を実践することができるとしております。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、事務室に掲示するとともに、毎朝のミーティング時に唱和して共用している。 代表者は「自分が入りたい」と思えるグループホームを目指しており、「一人ひとりが快適な暮らしができるよう」と理念に掲げて実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の児童から運動会の招待状が届き、皆さんで運動会を観に行きました。一年生と手を繋いで行進をして、玉入れに参加してきました。下校中の二年生の小学生がホームの前で転倒し、子供たちが騒いでいました。ホームに入って貰い、傷の手当をしました。又、学校帰りの子供がトイレも借りに来たりもしております。運営会議の時に家族のサービスを受けるための相談に乗ったり、民生委員の方から独居の相談を受けたりもしています。	事業所は自治会に加入しており、職員と利用者は草取りや地域の清掃活動に参加している。利用者は小学校の運動会を見学に行くなど、地域とつながりを保ちながら暮らしている。利用者や職員は、散歩しながら近隣住民と挨拶を交わしたり、野菜や果物を頂くほか、敷地内のラベンダーをお裾分けして喜ばれるなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生・高校生・特別支援学校などの職場体験学習の場として開放しております。地元のボーイスカウト水戸4団ビーバー隊を招いてそば打ち体験をしております。勝手の分からない子供たちや保護者に教えながら行っております。火を皆で起こして外で茹で皆で食しました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2月に一度行っております。その中で出席して下さる校長先生にお花見旅行のバス代が高額になるので相談をしたら学校も大変です、今年からずいぶん値上がりしました、と仰っていました。皆さんに近くの花見情報を聞き参考にし、お花見に行ったりしております。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、近隣の小学校、中学校、特別支援学校関係者、老人クラブ代表などが参加して2ヶ月に1回開催している。 代表者は事業所の活動報告などを行い、参加者からアドバイスを頂くなど、情報交換をしている。 お花見外出や家族旅行の企画にアイデアを得て、出た意見をサービスの向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所からの事業実態書類などの提出・改善命令等に対しては実施を確実にしております。何度も市役所に通い密に連携をとっております。事業実態を細かに報告しながら、よりよい介護ができるように努めております。	市職員は毎回運営推進会議に出席をしている。 代表者は月に1回以上は市に出向き、事業所の入居状況を報告するほか、省令に基づいたアドバイスや指導、提案を受けるなど、連携を図りながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車いすが必要な方も、動くときだけにしか使用しません。皆さんと同じように皆さんとお揃いの椅子に座り、本人の希望でソファに座ったり、畳スペースに座ることもあります。お部屋で過ごしたいと仰る時は希望の通りにしております。玄関は夜間は鍵をかけておりますが、その他の時間帯は開いております。又、自由に庭に出て庭を眺めたり、職員と一緒に畑の様子を見たり収穫をしたりなども出来るようになっております。	事務室に身体拘束防止のポスターを掲示し、身体拘束廃止マニュアルを作成するとともに内部研修を開催して、職員は禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を理解している。 一人で外出しようとする利用者に対しては、「私も連れて行って」とさりげなく声かけや見守りを行い、玄関の施錠も含めて身体拘束をしないケアに努めている。 現在は身体拘束の対象となる利用者はいないため、身体拘束に対する家族等への「同意書」や「経過観察記録」、「再検討記録」などの書類を整備するまでには至っていない。	やむを得ず身体拘束をする場合に備え、「同意書」や「経過観察記録」、「再検討記録」などを整備することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス時に虐待についての勉強会を開いたりしております。事務所などいつでも見える所に虐待防止のポスターを掲示したり、職員がいつでも閲覧できる本棚に関連書籍を置いています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護で家族のいらっしゃらない方が多いので活用したいと思っております。現在は社会福祉協議会を通じて入居している方が1名いらっしゃいます。その際、今後の事についてなども話し合いをさせて頂いております。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をしております。その方により契約書を入所前に渡しご家族で検討して下さいと、渡す事もあります。改定の際はどこが改定されたかなどを詳しく記入した手紙と共にお渡しして理解を得ております。その際電話で質問などがある場合は電話でも対応をしております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営委員にご家族が入っております。意見や要望などを出して頂ける機会だと思っております。また、委員の中には他の施設に入所している方がおります。みなで話を聞いたりしております。	家族等に毎月広報誌を送付する際に、意見や要望を呼びかけるメモを同封したり、家族等の来訪時に意見や要望を汲みあげるよう努めている。 花見や旅行などの行事のほか、料金の改定などについては、往復はがきを利用して家族等に賛否の確認を取っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議の書類等は誰もが閲覧できる様にしております。一ヶ月に一度カンファレンスの他に、時折、職員同士の食事会などを開き意見・要望など聞いたりしております。	代表者は月1回の職員会議で職員の意見や要望を聞くほか、日常的にコミュニケーションを図って自由に意見等を出し易い雰囲気づくりに努めている。 手拭きタオルを使い捨てのペーパータオルに変更したほか、職員の休憩室を新設して冷蔵庫を設置するなど、職員の要望を受けて反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に昼休みをゆっくと過ごしてもらう為に、休憩室を新設しました。休みは希望休を勤務表を作る10日前までに提出してもらいなるべく希望にそうようにしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会のパンフレットを回覧したりしておりますが、自分から進んで研修する職員があまりおりません。ですので、会社から職員に合う研修を探して研修してもらっております。 研修報告書を提出してもらい、勉強会等、他の職員にも教える機会を作っています。それにより、研修を受けた職員は理解を深めることが出来ます。また受けていない職員にも覚えてきたことなどを共有することができます。また職員の興味につながり、新しい研修に参加することにも繋がります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	経営者・管理者がボランティアのクラブに入会して交流しております。 また、研修会などで知り合った同業者と連絡を取り合っております。 退職した職員が野菜を持って遊びに来たり、犬を連れて遊びに来たりしております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族だけでの見学が多いので、本人の見学を勧めしております。まず自分の目で確かめて良かったら入って下さいと言っています。 仕方がないから入ると仰る方にも選ぶ権利があります。嫌なら又、別の場所を探しましょうと言っています。その方に寄り添い話を聞きながら、日々の生活に慣れてもらうのが1番です。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	先ずご家族の話を聞き、本人からも話を聞きどうしたいのかを聞きます。利用者さんがこれからどんな生活を送ったら良いのか話合います。より良い生活が出来るように、どんどん面会に来るようにして下さることを推奨しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の情報と医療情報をまとめ本人の意向に添ってその時に合った支援をしたいと思っております。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として少し先に歩いているだけ、順番だから私もすぐ行く道です。と口ぐせです。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんが入所することで、留守になる家に猫が一匹残ってしまうことになりました。誰が面倒見るかということになり、家族と話合った結果家の鍵を預かって一週間に一度利用者さんと一緒に通いました。餌、トイレの始末をしました。猫の為に入所を拒んでいた利用者さんは落ち着き生活を送っております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	猫の世話に通い近所の方から、自宅に居た時の話を聞いたり、庭に咲いている花を頂いたりしました。本人への「元気になったね」という言葉が励みになっているようです。	職員は利用者の家族等や知人の面会時には、お茶などを出して寛げるよう積極的に支援をし、再来を働きかけるなどしている。 散歩の途中に寄ってくれる利用者の知人は、ほかの利用者とも馴染みとなっており、知人の訪問時には皆で和やかなひとときを過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方とテーブルを一緒にするようにしています。入浴も仲の良い方と一緒にするようにしております。また台所などのお手伝いも一緒にお願しております。一人である方には、犬を抱っこして頂いたりして、他利用者さんと「可愛いね」などとお話したりも出来るようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	前に入居していらっしゃったご家族が野菜や玄関の花（菊鉢）を持って来て下さって、遊んでいってくれたりしています。相談や支援という言葉はおこがましいかも知れません。こちらの方が支援して頂いていると感謝しております。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランの目標設定の為にアセスメントを取っております。普段の交わりの中で一人一人の意向を伺い、スタッフ間で申し送りをしております。	職員は利用者と日々の関わりのなかで一人ひとりの希望や意向を把握することに努めている。 絵の好きな利用者には、市で開催する絵画講座へ代表者も一緒に通うなど、利用者の励みや喜びにつながる支援を行うとともに、これらを記録に残して介護計画に反映し、評価を行って利用者本位の支援に努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族のお話を傾聴し、生活歴などの把握に努めています。生い立ちや家族、趣味、仕事などを聞いています。また、前に居た施設などから介護サマリーなどを頂き、どんな方なのか、どんな生活をしていたのかなどを教えてくださいようになっています。個人ファイルは職員が自由に閲覧できるようになっています。	/		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス時に利用者さん一人一人について深い話し合いが出来るように努めております。また、朝夕の申し送り時にその日あった事などを伝え、職員間で情報を共有しております。	/		/	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が介護計画を作成する際には、本人や家族だけでなく、職員などにも聞き取りを行っております。そこで出たアイデアなどを計画に反映させております。	介護計画は職員が利用者や家族等の意見や要望、医師の意見を踏まえ、月1回の職員会議などで職員の意見を聞き、出たアイデアを取り入れるとともに、利用者の残存能力を介護計画に反映しながら、計画作成担当者が作成している。 3ヶ月毎にモニタリングを行って見直しをしている。 利用者の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の言葉で毎日個別の記録を残しております。職員はそれらを自由に閲覧することが出来ます。また、実践や計画作成時に役立てしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会社の「社会保険協会」の補助券を利用して梨狩りに行ったり、利用者さんの御家族の職場「五浦美術館」に行ったことがあります。また、近所の食堂の協力で貸し切り状態で昼食を食べることもありました。職員が入会しているガールスカウト・ボーイスカウトの子供たちが遊びに来てくれることもあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知予防推進のみと友縁会メンバーが時々来て下さいます。ゲーム・歌・朗読・ひょっこり踊りをして頂いたりします。「いきいき体操・詩吟」有資格者が10年以上に渡って毎週ボランティアに来てくださっております。皆さんで楽しみにしています。また中学生・高校生の職場実習に使って頂いております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームで対応している受診は、かかりつけ医。それも家族が連れて行きます。家族が無理な場合は半月に一度の訪問診療に切り替え医療を受けられるように支援しています。	入居時に利用者や家族等が希望するかかりつけ医を確認し、かかりつけ医への受診は、家族等の付き添いを基本としているが、緊急時の場合は職員が受診の支援をしている。 協力医療機関への受診は職員が付き添い、受診結果は家族等に電話などで連絡するとともに、「受診申し送りノート」に記載して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がいるので、常に対応しております。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は情報提供や看護サマリーを頂き、病院と施設とが連携出来るように対応をしております。また、病院関係者と蜜に連絡を取り合い、関係づくりをしております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ終末期としての支援は実行に移した事はありませんが、御家族が望まれるのであれば話し合いをしたいと思います。医師との契約は交わしております。	「看取りに関する指針」を作成しているが、契約時に利用者や家族等に説明したり、看取り介護に関する研修を開催するまでには至っていない。 事業所では協力医療機関と連携体制を築き、利用者や家族等の希望にそって看取り介護を行う体制になっている。	家族等に看取り介護に関して説明をし、同意を得るとともに、看取り介護に関する内部研修を実施して、職員が不安なく看取りの対応ができる体制づくりを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスの話し合いで行います。管理者が救急救命の勉強をので手当や気道確保など訓練を行っております。また、こういう時はなど疑問などはすぐに答えられるようにしております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回行っております。近所の方にも声をかけ参加してもらっています。職員と一緒に水消火器で訓練してもらっています。火災訓練は消防署と行っております。地震の避難訓練はシェイクアウト訓練に参加しております。	避難訓練は、消防署や地域住民の参加を得て年2回実施しているが、夜間想定訓練を実施するまでには至っていない。 訓練後に反省会を行い、訓練で明らかになった課題について話し合い、内容を記録に残すまでには至っていない。 災害に備え、米や飲料水、缶詰等を備品リストを作成して定期的に確認し、管理している。	夜間想定など様々な状況を想定した避難訓練を行うことを期待する。 避難訓練実施記録の作成と、訓練で明らかになった課題について話し合い、記録に残して次回の訓練に生かしていくことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人によって、言葉かけの仕方などを職員同士で話し合っていて変えています。その人が楽しく気持ちよく過ごせるように話題の方向なども考えながら接するように努めております。	職員は利用者の人格の尊厳やプライバシーを大切にし、利用者の名前を「さん」付けで呼ぶように心がけ、言葉使いや態度に配慮した対応ができるようにしている。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報漏洩に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何もしたがらない方には積極的に色々なことを挑戦して頂いたりしています。何がしたいか聞くとお料理などと仰るので、昼食の手伝いなどをして頂くこともあります。できるだけ趣味ややりたいと思えることを見つけていこうと努力しております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お昼寝の時間などを作って自由に過ごせる時間を作っております。また、夕食前の時間には自室で休んだり、テレビを見たり自由に過ごせるようにしております。また消灯時間までは自由に過ごすことが出来、テレビを見たり、お話をしたり、消灯時間前に就寝したりなど思い思いに過ごしていらっしやいます。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水乳液、おしろい・眉墨を買ってきてもらいたいという方に定期的に買ってきて、使用してもらっています。その方は口紅をさしたりなども毎日しております。定期的に爪の手入れもしております。10色ほどのマニキュアの中から好きな色を選んで塗り、各々おしゃれを楽しんでおります。昔を懐かしんだりしながら手を眺めていつも嬉しそうにしております。男性はひげは個人で剃りますが、剃り残しがあったり希望のある方にはこちらで剃ることもしております。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんと毎週水曜日レクリエーションの時間におやつ作りをしています。利用者さん同士で協力して作っています。ケーキやどら焼き、蒸しパンなどのおやつ系から時々はうどんやそば、ピザなども作ることもあります。 普段の食事作りでは、利用者さんにお米を研いでもらったり、野菜の皮を剥いて貰ったり、おかずによってお皿を選んで盛り付けをして頂いたりしております。食事をした後はお皿を拭いて貰ったり片付けをして頂いたりしております。	職員は利用者と自家菜園で育てたトマトやスイカ、ねぎ、しそなどの新鮮な野菜や、地域住民から頂いた旬の野菜を食材に加え、季節感のある献立でとなるよう工夫している。 食事作りをする職員は、利用者と一緒に同じものを摂り、ほかの職員は持参した弁当を互いのおかずを味見したり、楽しく会話をしながら食事をしている。 職員は利用者と一緒に、週1回パンやピザ、ケーキ作りのほか、そば打ちなどを利用者の能力に応じて役割を担いながら楽しめるよう、工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	以前、利用していた、タイヘイクッキングデポの高齢者施設向けのメニューを使用しております。 栄養士がレシピを監修しており、カロリーコントロールされたメニューを作っております。作り方のレシピもあり、味付けなども管理されています。 水分制限のある方にはコップを小さくしたりして工夫しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の方からは入れ歯を毎日預かり、洗浄し、消毒しております。口臭が気になる方にはマウスウォッシュを購入して頂き、職員立ち会いのもと、洗浄して頂いております。 また食事の後には、口腔ケアをするように声掛けをしております。一人では難しい方には職員がついていき、きちんと歯磨きや口をゆすいで頂けるようにしております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄の時間を計算しています。必要な方には夜間なども起こすことで、失禁などを少しでも減らすように努めております。 おむつの利用は極力減らし、トイレに行って排泄をしております。 また、毎朝行う体操に尿漏れ防止体操を盛り込み毎日継続的に行っております。	全居室にはトイレが設置されており、排泄の自立に向けた環境が整っている。 職員は排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握するとともに、適切な声かけ誘導を行うことで、利用者全員が布パンツ着用となり、夜間も含めて全員がトイレでの排泄ができています。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員毎日便通があったかどうかを調べております。利用者さん同士を見比べて、何に原因があるのかを見ます。一定期間ない方には、お腹のマッサージを促したり、トイレに少し座ってみるということをしてしております。お腹の動きを良くする運動をしたりなどもしております。それでも出ない場合は病院に連携を諮って、便秘のお薬を処方して頂いたりしております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日出来るようにしております。利用者さんの希望でお風呂に入る・入らない等を決めることが出来ます。自分専用の籠にシャンプーと石鹸を入れて持ってきています。個々で違うのでとても嬉しい様子です。お風呂の中では皆さんで歌を歌ったりおしゃべりをしたり楽しく過ごしております。	入浴は毎日日勤帯を基本とし、希望に応じて時間を問わずシャワー浴も行っている。浴槽は檜風呂を設置して風情を楽しめるようにしたり、柚子湯や菖蒲湯、入浴剤などを利用して利用者の希望や好みに応じた季節感を楽しめる入浴支援を行っている。現在入浴を拒む利用者はおらず、利用者が毎日入浴が楽しめるよう個々に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を決めて安眠に務めるようにしています。また、徘徊者や眠れない方が居ないかどうか定期的に職員が巡回しています。お部屋に一人にいるのは不安という方には、職員の目の届く場所に布団を敷いて安心して眠れるようにしています。それにより安心して眠れる環境を作っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋状況は常に職員がいつでも見れる個人ファイルに入っており、疑問があればすぐに閲覧することが出来ます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のお茶は自分で選択することが出来ます。コーヒーや昆布茶、緑茶などから選ぶことが出来ます。午前中のレクレーションの時間は自分の好きなことができます。はりっぺ・絵を描く・縫い物・編み物・かご作りなど昔から嗜んでいたものから、ホームに来て始めたことまで様々ですが楽しんで行っています。そば打ちやお米を炊いておにぎりをつくる時は外で火を焚くのですが、その際は男性に火おこしをして頂いております。おにぎり作りは女性にやって頂いたり分担任しております。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族がいる方には積極的に外に連れ出すように働きかけています。買い物や外で食事をするのが嬉しい様です。春には、全員で温泉に行ったりするなど遠足を催しております。近所の定食屋さんやファミリーレストランに食事に行くこともあります。自分で好きなものを注文して食べています。時々、コンビニへ買い物に行ってお好きなおやつを買ってこれるような機会を設けております。ただ、家族が居ない方にとっては家族がいる方と比較してしまうと、やはり物足りない部分も出てきてしまうかもしれません。	職員と利用者は近くの公園への散歩を毎日行っており、散歩の途中でコンビニエンスストアへ立ち寄るなど、楽しい外出支援ができるように工夫している。 職員は利用者や家族等と相談して年間の外出計画を立て、家族等同行の温泉や観光地巡りバスツアーを行っている。 地域住民から情報を得てお花見ドライブを実施したり、近隣の食堂に出かけて、外食を楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コンビニで予算を決めて好きな物（おやつ）を買ったりしております。孫にお小遣いをもらい、ひ孫にあげたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話あり、家族に自由にかけていたりしています。遠い家族には、ハガキに住所を書いてあげ、内容を本人が書き投函したりしています。お正月の時期には家族のいる利用者さんは年賀状を出したりしています。また利用者さん全員に、職員が年賀状を出しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	風通しの良い様に中庭があります。全員の部屋から中庭のもみじがみえます。春には新緑、秋は紅葉が体感できます。皆さんが気になる畑があり、ミニトマトが赤くなったと言い、部屋の前のスイカは何個あると話題になることがしばしばです。居間には季節の草花をおいております。ランなどの為に外には温室があります。利用者さんが水をかけてくれたりしています。	居間兼食堂にはオルガンや古風な箏箏があるほか、壁には利用者が制作したちぎり絵や水彩画などが掲示されている。 小上がりの和室が設置されており、お月見のススキや菊の花が飾られてたり、ソファを配置するなど、季節感のある家庭的で落ち着いた雰囲気と明るくゆったりと過ごせる居心地の良い空間となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室スペースがあり横になることができます。食堂は座る所が決められているので安心していきます。自由に座ることが出来るソファもあり仲良く話をしたりテレビを見たりすることができます。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	先ずは家で使っていた布団を持って来てもらい、その他に写真や大切にしていた物を持って来て頂いております。部屋が寂しい時は施設の家具を使って頂くこともあります。また工作で作った作品を飾ったりもしております。何も持っていない方には布団からタオル・着替えまで貸した時もありました。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	至る所に手摺があり、つかまりながら歩く事ができます。各部屋にはトイレ・洗面台がついているので、自由にゆっくりトイレが使うことができます。 お部屋の前には手作りの可愛い表札がかけられて、自分のお部屋と他人のお部屋とを区別することが出来ます。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームハイジの丘

作成日 平成28年4月8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	契約書には身体拘束に対する事項が記入されている。しかしそれを詳しく説明する書類と同意書がない状態だった。 また、身体拘束の対象になる利用者がいないので、それらに関する家族らへの同意書などを作成するに至っていないためである。職員の心がけなどだけでなく、やむを得ず身体拘束をする場合に備えて、「同意書」「経過観察記録」「再検討記録」などを作成し、整備することが課題とされる。	平成28年4月末までに作成をする。	施設長、管理者、ケアマネジャーでどういった内容の身体拘束に関する「身体拘束指針説明書兼同意書」を作成するか話し合い、それに基づいた書類を作成する。	平成28年4月末までに作成する
2	33	看取り介護に関する書類などはそろっているが、対象になる様な利用者が居ないので職員が慣れていない状態である。	看取り介護に関する内部研修を実施し、職員が不安なく対応できる体制づくりを強化する。	看取り介護についての施設内研修を行う。 看護師による研修会を年に1～2回開いて話し合いを持つ。それにより、看取り介護に不安なく、全体で関わりを持つことができる。 また、積極的に外部の看取り介護に関する研修に職員を参加させて、その支援をする。その際、学んできた職員には研修を開いて貰い、施設内で知識を共有する。 また、貸出可能な看取り介護に関する書籍（本棚に常在している）を積極的に職員に紹介して、時間のある時に読んで貰うようにする。	平成28年4月20日に研修会を行う
3	35	避難訓練において、夜間想定をするまでには至っていない。 訓練後の反省会を行っているが、それに関する書類を残すまでには至っていない状態である。	夜間想定 of 避難訓練を実施する。 避難訓練後の議事録を作成する。	夜間想定 of 避難訓練に関する職員に向けてのマニュアルを作成する。また、それに沿って施設内で事前研修を行う。職員が不安なく各自の行動ができるようにする。訓練をした上で、その後事後研修を行う。	平成28年4月末までに夜間想定 of 避難訓練を行う

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。